本誌第 40 巻 1 号 渡邊秀寿, 川村正太郎 : 「潰瘍性大腸炎の再燃に伴い一過性全健忘の再発作を きたした症例」の一過性全健忘診断の検査について

五十野博基¹⁾ 宮崎賢治²⁾ 小曽根早知子³⁾

Hiroki Isono¹⁾, Kenji Miyazaki²⁾, Sachiko Ozone³⁾

Keywords : 一過性全健忘 (Transient global amnesia), 医療費 (health care cost)

渡邊先生達の論文を興味深く拝読しました。

本症例では2回の頭部MRIや脳波検査に至るまで、どのような臨床推論を行ったのでしょうか。この疑問を提示しますのは、この検査を施行できない病院での転院要否、良性疾患の診断に要するコスト¹⁾の検討が求められるからです。

本症例の初回発作は、提示された診断基準全てに合致した一過性全健忘でした。一過性全健忘の鑑別には、脳卒中と一過性てんかん性健忘があがります²⁾。しかし、健忘のみの脳卒中²⁾と、鎮静無しの消化管内視鏡検査で発症する脳卒中³⁾は、各々が非常に稀だと思います。また、一過性てんかん性健忘の多くは分単位で持続で、随伴症状を伴い、発作頻度は平均14.8回/年とされており⁴⁾、本例ではいずれも可能性が低いと思われま

す。

文 献

- 1) Horowitz SH. Diagnostic decision-making, burdens of proof, and a \$6000 per hour memory lapse. JAMA. 2013; 173(16): 1493-1494.
- 2) Arena JE, Rabinstein AA. Transient global amnesia. Mayo Clin Proc. 2015; 90(2): 264-272.
- 3) Fisher DA, Maple JT, Ben-Menachem T, et al. Complications of colonoscopy. Gastrointest Endosc. 2011; 74(4): 745-752.
- 4) Butler CR, Zeman AZ. Recent insights into the impairment of memory in epilepsy: transient epileptic amnesia, accelerated long-term forgetting and remote memory impairment. Brain. 2008; 131(9): 2243-2263.

1) 筑波大学大学院人間総合科学研究科

2) 筑波大学附属病院総合診療グループ

3) 筑波大学医学医療系

著者連絡先：五十野博基 筑波大学大学院人間総合科学研究科 [〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1]

email: hirokisono@gmail.com

(受付日：2017年5月14日，採用日：2017年10月19日)

©2018 日本プライマリ・ケア連合学会